

InterSolutionMarketing, Inc.

<http://www.intersolutionmarketing.com>

Bluetooth シリアル変換アダプター Parani-SD1000/100/200

自動ペアリング・クイックマニュアル

はじめに

各 Bluetooth 機器は固有の BD アドレスを持っており、それによってお互いを認識します。その特性を利用して、毎回違うデバイスと Bluetooth 接続をするように設定することも、必ず決められた相手と Bluetooth 接続を行うように設定することも可能です。

今回は後者の、電源をオンにするたびに決められた相手(パートナー機器)とペアリング(ワイヤレス接続)を行うように設定する方法を以下に記します。

自動ペアリング方法には 2 種類の方法があります。

- ① Parani-Win ソフトウェアを使った自動ペアリング設定
- ② 本体 Paring ボタンを使った自動ペアリング設定

注意:本マニュアルは 8 データビット同士の通信を想定した説明となっています。Parani-SD シリーズは基本的には 7 データビット通信には対応していませんが、7 データビットでの通信が必要な場合、双方の側に Parani-SD を使用する必要があります。詳細については弊社サポートまでご連絡ください。 support@intersolutionmarketing.com

① Parani-Win ソフトウェアを使った自動ペアリング設定

準備するもの

ペアリング設定をおこなう 2 台の Parani-SD1000/100/200

Parani 機器の電源を確保。(ペアリング設定中は電源を 2 台とも ON にします)。

設定用 PC に Parani-WIN をインストール。

手順の概略

2 台の Parani を PC のシリアルポートにつなぎ、1 台ずつ設定を行います。(設定中は 2 台とも電源を ON にします)

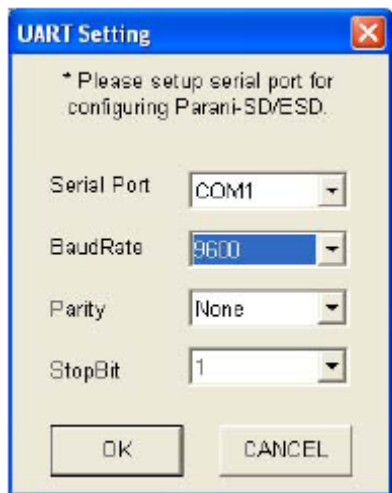
最初に設定を行うほうがスレーブ、次に差し込むほうがマスター側になります。

- I.. スレーブ側を検知可、接続可の状態にして、マスターが接続にくるのを待機します。
- II.. マスターは、スレーブ機器を見つけて、接続しに行きます。
- III.. 接続が成功したら、マスター機器を MODE1 に、スレーブ機器を MODE2 に設定します。

Parani-SD スレーブ側機器の設定

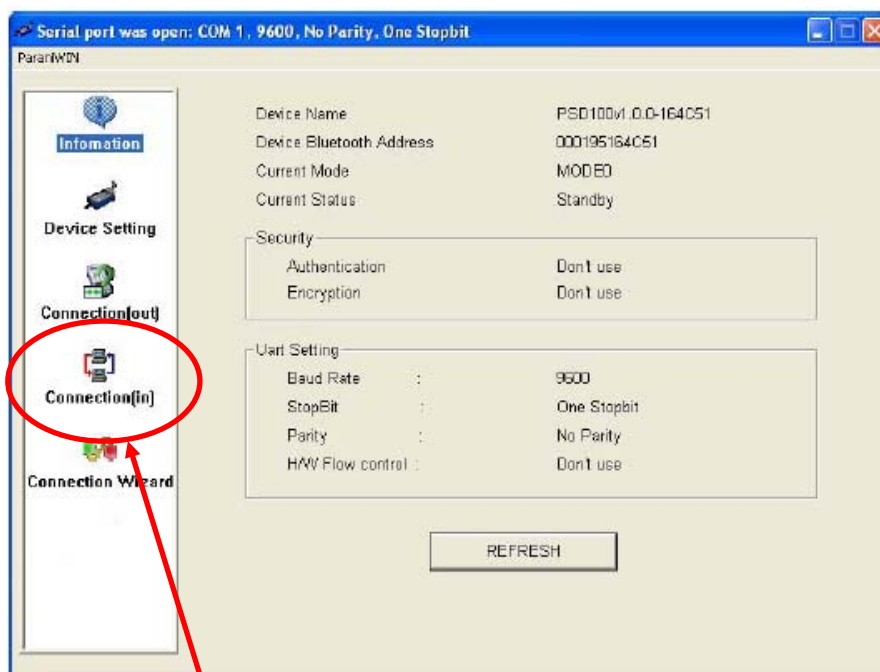
Parani-WIN を起動します。アイコンをダブルクリックしてください。

すると、以下のようなプロンプトが出ます。



Parani-SD をつないでいるポート番号、ボーレート、パリティ、ストップビット等をあわせて、OK をクリックします。(Parani-SD シリーズはファクトリデフォルト[工場出荷時の初期設定]時に以下のパラメータです。(Baud Rate:9600 Parity: None Stop Bit: 1)

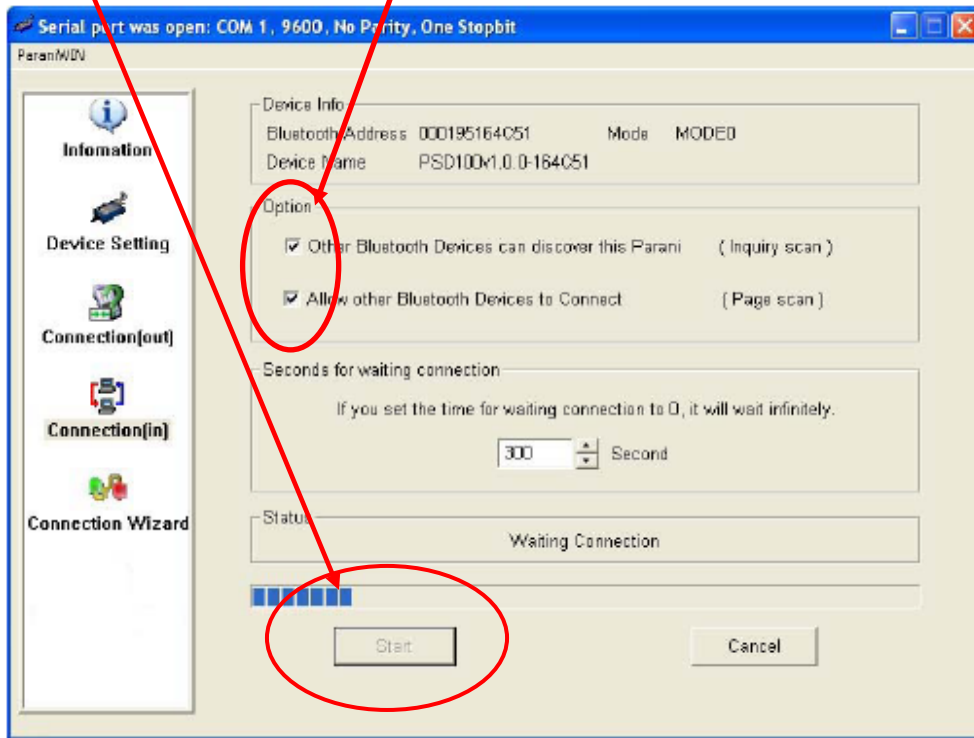
ポートにつながるとメイン画面が起動します。



現在の状態は MODE0,そして他 Bluetooth 機器からは Bluetooth 機器として認識されていません。
左側にある Connection(in)をクリックしてください。

スレーブ機器を他 Bluetooth 機器から検知可能、接続可能状態にします。

Option のボックス内の (**Inquiry Scan** および **Page Scan**) にチェックマークが付いていることを確認してから、**Start** ボタンを押してください。

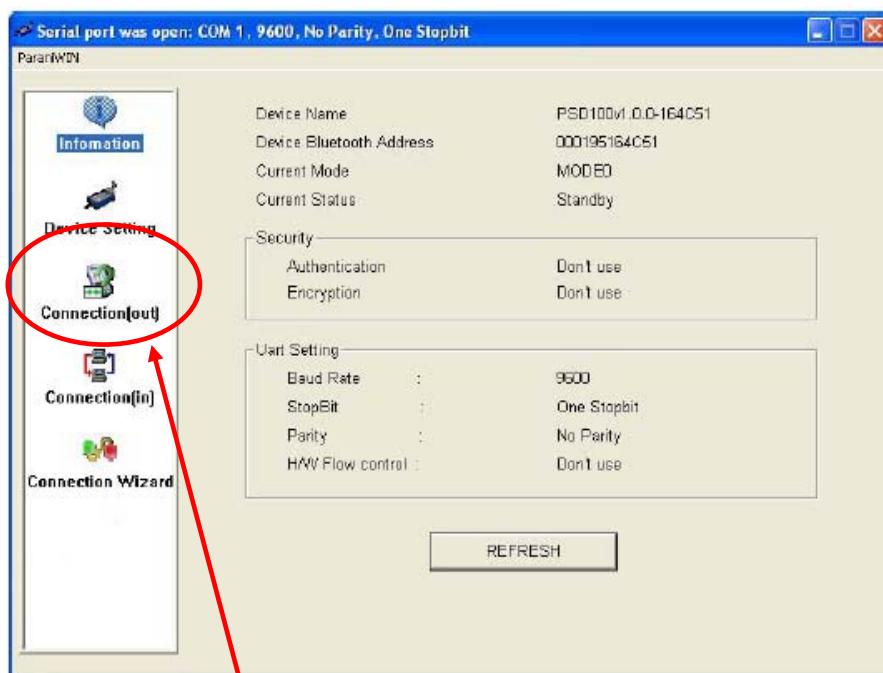


すると Status に **Waiting Connection** (接続されるのを待機中です) と表示されます。

Parani をポートから一旦抜いて(電源は ON のまま)、次にマスター側の設定を行います。
一度マネージャーソフトを(バツ印ボタンを押す)閉じてください。

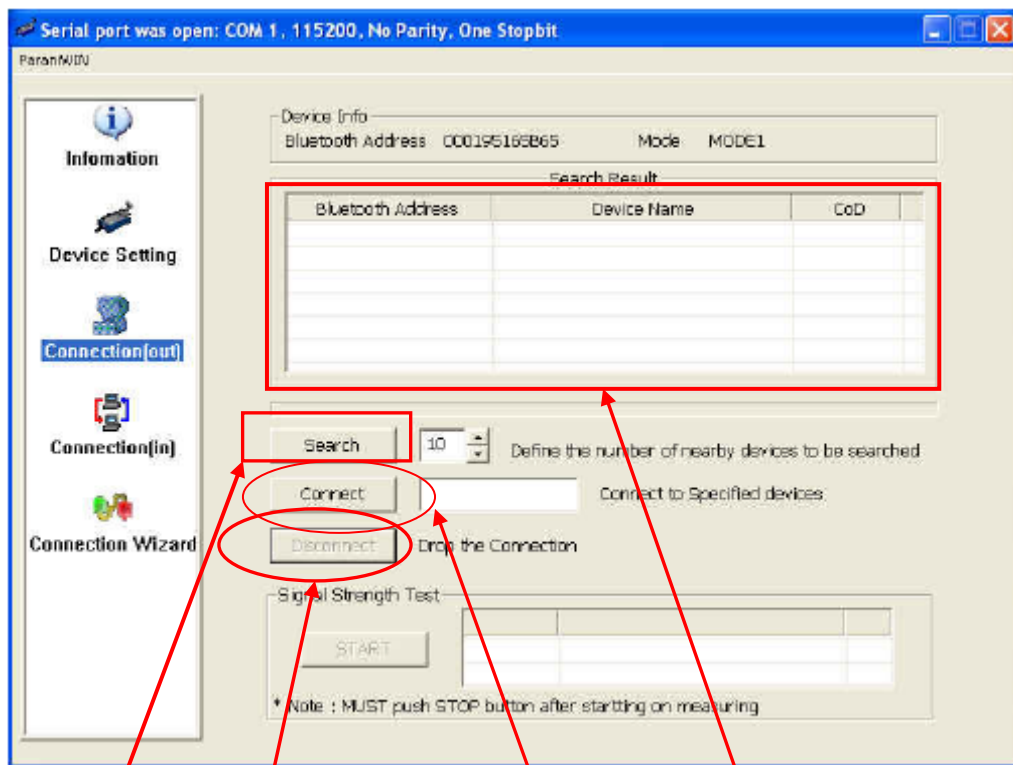
Parani-SD マスター側機器の設定

スレーブ機器と同様に電源を ON にし、シリアルポートにつなぎ、各種設定値を合わせた後、OK を押します。



するとメイン画面が表示されます。

左側コラム内にある、Connection(out)をクリックします。



これは、マスター側として、待機中のスレーブ機器を探し出し、接続を行うためのウィンドウ画面です。
Search ボタンをクリックします。

すると、上のボックスに、近隣の Bluetooth 機器の **BD(Bluetooth Device)アドレス一覧**が表示されます。

接続する Parani-SD の BD アドレスを見つけたら、一度 **Stop Serching** ボタンをおし、それからスレーブ側の BD アドレスをクリックして青く反転させてから **Connect ボタン**をクリックしてください。

すると数秒後に、**Connected Successfully**「接続に成功しました」というプロンプト表示がでます。それは、2 台の Parani-SD が Bluetooth 接続に成功したという意味です。

筐体にある Connect の LED 表示を見て、緑色に点灯していれば成功です。

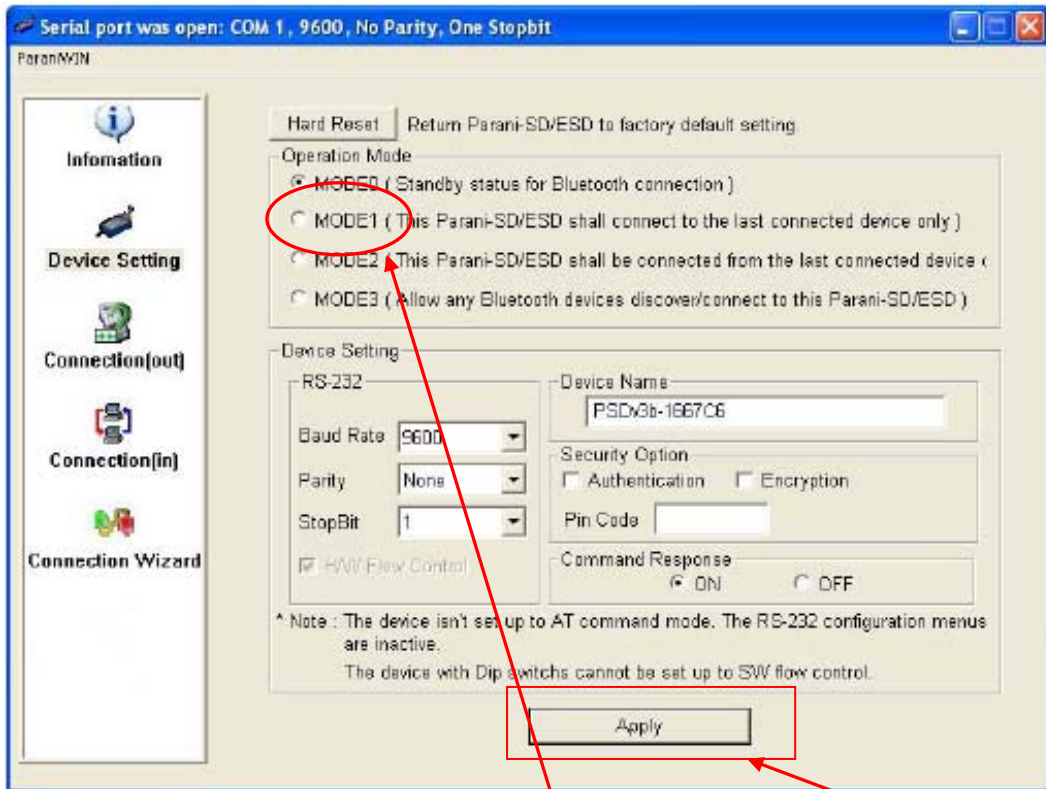
次に **Disconnect ボタン**を押していったん接続を終了します。**注意:これを忘れると作業がうまくいかなくなるので、忘れないでください。**

つぎに、電源をつけたり消したりしても、常に決めた相手と Bluetooth 接続を行うための自動ペアリング設定を行います。

自動ペアリング設定(マスター機器側)

つないだままで、左コラムにある **Device Setting** ボタンを押してください。

すると、Parani の各種設定を行うためのウィンドウ画面が開きます。



Operation Mode のボックス内にある **MODE1(マスター)** にチェックマークをいれ、**Apply** を押します。これで、この Bluetooth 機器は自動的に相手だけを探し、接続にいきます。

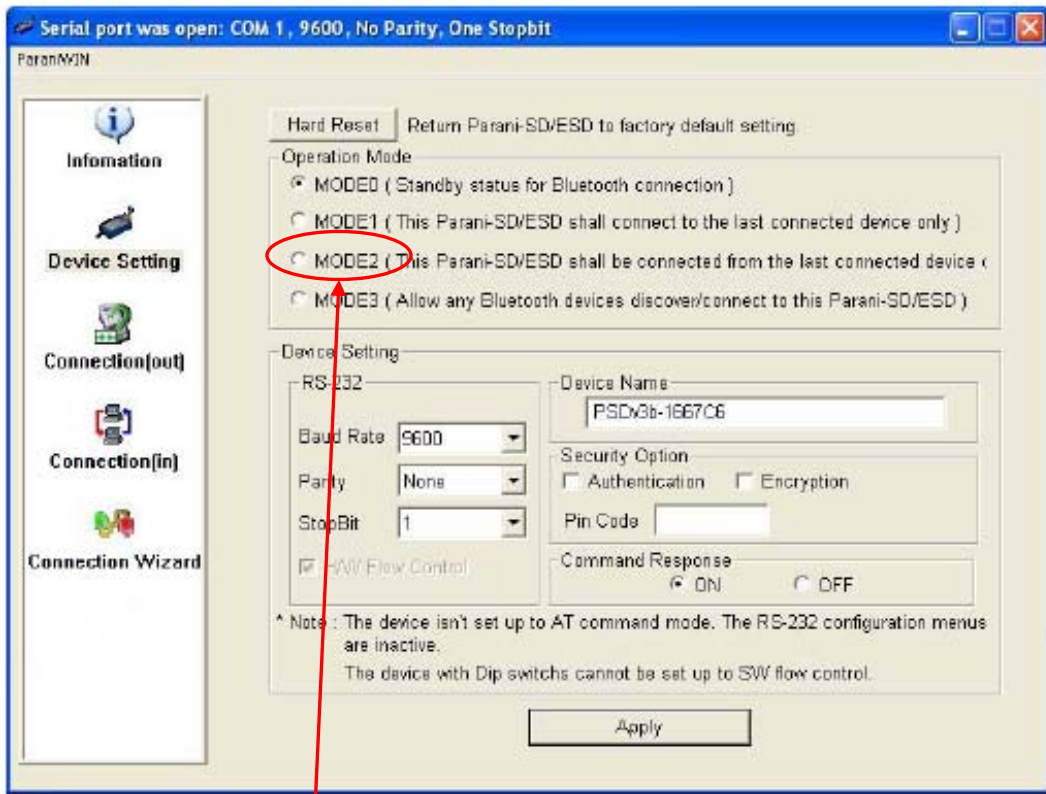
電源を切り、シリアルポートから取り外したあと、マネージャーソフトを閉じます。

次にスレーブ側の自動ペアリング設定を行います。

自動ペアリング設定(スレーブ機器側)

シリアルポートにつなぎ、マネージャーソフトを起動します。

同様の画面にて、Device Setting ボタンをクリックし、ウィンドウ画面にむかいます。



Operation Mode を **MODE2(スレーブ設定)**にし、Apply をクリックします。

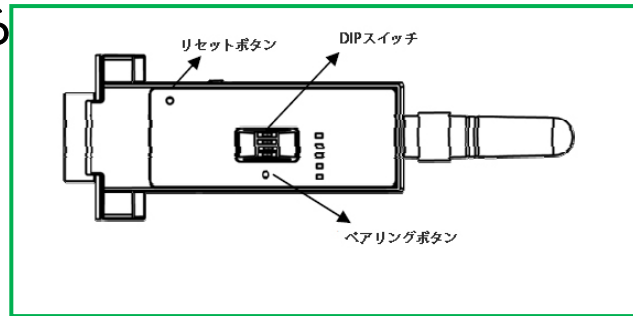
これで自動ペアリング設定が完了しました。

電源を Off にした後も、自動ペアリング設定を行った二台の Parani の電源を入れると、自動的に Bluetooth 接続を行うようになります。

また、この Device setting 画面から、必要に応じて速度の変更、ユーザーフレンドリー名、暗号化、Pin コード認証の設定なども行うことができます。

以上です。

② ペアリングボタンによる 自動ペアリング設定



これはペアリングボタンを使用した簡単ペアリング設定であり、マネージャソフトを起動する必要はありません。注記:ペアリングボタンを使ったペアリング設定は簡単ですが、詳細な設定を行うことができません。

1. 2台の Parani-SD1000 を用意、電源を入れます。（文中では1台目の Parani を SD01,2台目の Parani を SD02 と呼びます。）
2. DIP スイッチをあらかじめ設定したい Baud Rate に合わせます。

Baud rate	2400	4800	9600	19.2K	38.4K	57.6K	115.2K	S/W Config

3. Factory Default (リセット) ボタンを押します。Connect LED がオレンジ色に点灯するのを確認します。
4. 電源を一度切り、再度オンにします。
5. SD01 のペアリングボタンを 2 秒ほど、押し続けます。Mode LED が緑色に 2 秒毎 3 回づつ点滅を始めます。
6. SD02 のペアリングボタンを 2 秒ほど、押し続けます。Mode LED が緑色に 2 秒毎 3 回づつ点滅を始めます。
7. もう一度 SD02 のペアリングボタンを押します。すると、Mode LED が 0.5 秒毎点滅しはじめます。
8. しばらくすると SD01 および SD02 両方の Connect LED が、ゆっくり点滅し続けます。これで両方の Parani-SD1000 のペアリングが完了しました。

お問い合わせ先

株式会社インターソリューションマーケティング

〒150-0013

東京都渋谷区恵比寿 1-24-14

EXOS 恵比寿ビル 5F

Phone:03-5795-2685 Fax: 03-5795-2686

Mail: info@intersolutionmarketing.com

Parani 製品の開発・製造は SENA Technologies 社です。

仕様は断りなく変更されることがあります。

製品名、会社名は各社の商標あるいは登録商標です。無断でコピー、転載、記載を堅くお断りします。